

## 令和7年度 京都市民健康づくり推進会議「生活習慣病予防部会」摘録

### ＜開催日時＞

令和7年12月10日（水）午後2時～午後3時30分

### ＜開催場所・形式＞

Zoomによるオンライン開催

ハートンホテル京都 2階「嵯峨」

### ＜摘要＞

- 1 開会挨拶 京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室長
- 2 出席者紹介等 事務局
- 3 議事進行 生活習慣病予防部会 部会長

#### (1) 健康寿命の状況【資料3】

報告・説明 事務局

意見聴取等 なし

#### (2) 京都市の健康課題について【資料4】

報告・説明 事務局

意見聴取等 ○機関・団体等 ◎部会長（生活習慣病予防部会）●事務局

◎部会長	<p>京都市の健康課題について、本日御欠席の京都大学高橋先生の御意見を紹介する。</p> <p>本委員会の委員及び喫煙禁煙に関する専門家としての立場から、京都市のたばこ対策について意見を陳述する。京都市は行政が率先してたばこ対策を推進し、全国的にみても素晴らしい成果を上げてきた。行政や委員の皆様の見識と行動力に敬意を表する。</p> <p>しかしながら、COPDの認識率はまだ低く、また市民の37.2%と、3人に1人以上が望まない受動喫煙を経験している。受動喫煙を受けた場所でもっとも多いのが路上であり、令和3年より増加している。路上は妊娠中の女性や乳幼児も利用する場所であり、受動喫煙を避けることができにくい場所である。これらのデータから、COPDを含めた市民への教育啓発の一層の推進と、路上喫煙等対策強化区域の拡大が、京都市における市民の健康づくりに必須であり急務であることが示されたといえよう。</p> <p>現在、禁煙に用いられる薬剤には「ニコチン代替療法剤」と「バレニクリン」の2種類があり、医療機関における禁煙保険診療のほか、薬局での対面販売（OTC）にてもニコチン代替療法剤の一部は入手できる。医療機関での禁煙保険診療では、規定回数（5回）の受診を終了した場</p>
------	---

	<p>合の禁煙成功率は、どちらの薬剤であっても 80% を超える好成績であり、禁煙はほとんどの人にとって「できないもの、無理なもの」ではなく、「できるもの」へと変貌した。このことも市民への教育啓発に含めるべき重要な事項である。</p> <p>今後はより一層、受動喫煙の有害性と禁煙治療の有効性についての啓発を進め、喫煙から禁煙への後押しをするとともに、京都市全域の路上喫煙等対策強化区域化を推進する必要がある。</p> <p>路上喫煙も多いが、屋外設置の喫煙所から流れてくる煙による受動喫煙もある。煙は、風向きにより 30m 程広がるため、喫煙所の場所も含め、受動喫煙対策を検討する必要がある。</p> <p>また、屋内における受動喫煙は、屋外よりも限られた空間であるため、対策が重要。健康増進法では、屋内は原則禁煙である。大阪府や兵庫県では、屋内禁煙に罰則付きの条例を定めているが、京都府受動喫煙防止憲章では、罰則はない。喫煙可能な飲食店も多く課題を感じている。</p> <p>喫煙所設置は路上喫煙担当部署が、税金関係は財政の部署が担当するなど、行政内部において役割があることは理解するが、健康の観点を含め、市として組織横断的な検討が必要。</p> <p>京都市受動喫煙防止対策相談・届出専用窓口においても、様々な相談が入るため、関係部署と連携しながら市として対応していきたい。</p> <p>たばこ対策について、外国語対応ポスターの作成など、観光客に対する取組は実施しているか。</p> <p>また、若い世代を中心に広がる水たばこへの対策はしているか。</p> <p>外国人観光客へ向けた対策として関係部署と連携し、2か国語のチラシ及びポスターを作成し、啓発に取り組んでいる。</p> <p>水たばこについて、市内でも店舗が増えており、相談窓口に相談をいたたくことがある。たばこの一種であるため、健康増進法に基づき、対応している。</p> <p>老人クラブには、京都市内に約 3.9 万人の会員がいる。区老連や単位クラブ、市老連でそれぞれ健康づくり・介護予防に取り組んでいる。</p> <p>活動に参加する方は元気だが、会員から勧誘しても参加されない方も多く、いかにして出てきてもらうかが大事であると考えている。</p> <p>京都市にも良い取組はあるが、市民を巻き込んでいくための工夫が必要だと思われる。</p> <p>市民を巻き込む際に、京都市が取り組むプラスせんぽやいきいきアワードなどが仲間を引き込む魅力になったりはしないか。</p> <p>意識している方にはいいが、行動にまではなかなかつながらない。</p> <p>プラスせんぽ歩いたら野菜が安くなるチケットをもらえるなど、イン</p>
○ (特非) 京都禁煙推進研究会	
●事務局	
○ (一社) 京都府歯科医師会	
●事務局	
○ (一社) 京都市老人クラブ連合会 (すこやかクラブ京都)	
◎部会長	
○ (一社) 京都市老人クラブ連合会 (すこやかクラブ京都)	
◎部会長	

	<p>○ (一社) 京都市老人クラブ連合会 (すこやかクラブ京都)</p> <p>◎部会長</p> <p>○ (公社) 京都府看護協会</p> <p>○ヘルシーキャンパス京都ネットワーク</p> <p>◎部会長</p> <p>○学識経験者 (同志社大学)</p> <p>◎部会長</p>	<p>センティブはどうか。</p> <p>動機付けは人により異なるため、工夫していくことが大切と思っている。老人クラブでは地域で声をかけて、仲間づくり、健康で住みよい地域づくりに引き続き取り組んでまいりたい。</p> <p>地域の力と行政の施策を連携することが重要である。</p> <p>健康課題のまとめについて、課題も含めてこれまでの意見が反映されている。有病率や食塩摂取量など、年代別のデータがあるとより具体的な議論ができると思われる。</p> <p>当団体では、京都の大学とともにウォーキングチャレンジを実施しており、京都市にも協賛いただいている。京都市民への広報が不足しているため、強化していきたい。市民の皆様にウォーキングや健康づくりに意識を持ってもらえるような機会が提供できればと思っている。</p> <p>イベントは、今まで関心のない人にも関心を持ってもらえる機会になるため、皆で広く周知に取り組んでいけるとよい。</p> <p>運動はすると良いと分かっていても実施しない方が多い。最近ではナッジ理論を活用するなど、自然と動きたくなるような環境づくりも重要なといわれている。実際に、身体活動をしている方が街に増えると、実施していない方も取り組むというデータもあり、熱心な方を増やすしていくことも重要。ある研究では、曲がった歩道の方がよく歩くというデータもあり、まちづくりも含めた工夫が必要。</p> <p>健康だけでなくまちづくりとして部局横断的に推進してもらうといい。</p>
--	---	--

### (3) テーマ別検討事項

#### ① がん検診について京都市の健康課題について【資料5】

報告・説明 事務局

取組紹介 京都大学

意見聴取等 ○機関・団体等 ◎部会長 (生活習慣病予防部会) ●事務局

◎部会長	京都大学では、京都市が持っている医療・介護に関するビッグデータを分析している。肺がん検診では早期発見できると手術が可能であり、寿命も延び、医療費も少なくすむという方向性は確認できていると考えている。がん検診を受診しない理由に、「費用がかかる」とあったが、目の費用だけでなく、将来の費用が大きく変わることを分かりやすく伝える必要がある。
○ (一社) 京都府薬剤師会	京都府薬剤師会では、検診受診率向上のため、がん検診ガイドを、今年8月に府下で約1,000件、市内で約600件の保険薬局、薬局及び店舗販売業等に配布している。また、子宮頸がん及び乳がん検診の重要性を感じている。働き世代、若い方等の受診率を上げることが大切と

	<p>考えており、子宮頸がん検診の無料クーポンなど、ターゲットを絞って取り組んでおられ、素晴らしいと思う。</p> <p>禁煙の事業について、長年取り組まれた結果が実を結び、京都府は全国で2番目に喫煙率が低くなかった。がん検診についても、必要性を理解してもらうことが重要であるため、薬物乱用等と同様に若い世代からの教育が効果的ではないかと感じた</p>
○ (一社) 京都府医師会	<p>肺がん検診について、受診率が低いとあったが、65歳以上で検診を受けていない方の中には、高齢で手術の適応でない場合も含まれることに留意すべきだと考える。</p> <p>また、大学や企業によるビッグデータの分析事業は、企業の利害にも関わるため、研究内容やデータの取扱いには注意が必要だと感じた。</p>
○京都大学	<p>研究については、御指摘の通り、肺がんの診断を基点に、その後の経過を見ていく方法自体が様々なバイアスを含んでいるため、この結果をもって肺がん検診に効果があるとはいえないと考えており、論文でも記載している。また、現在の肺がん検診は、2000年代の研究において効果があるとの結果をもとに実施されている。現在、京都大学では、京都市が保有するさらに新しいデータベースを用いて、肺がん検診の効果を評価する研究も実施しているところである。</p>
◎部会長	<p>ビッグデータの分析、研究事業において、責任者という立場であるため、御指摘の企業との関係について懸念を抱かれてはいけないと考えている。そのため、必ず市民に還元できるような分析を行うことを前提に、京都市とも相談の下に研究テーマや研究成果の市民への還元について合意形成を図っている。</p>
○ (一社) 京都市地域女性連合会	<p>女性会には6,000人ほど会員があり、教育委員会から生涯学習学習として援助をいただき、学区でクラブを持ったり、作品展を市役所で実施したりと、できるだけ元気でいられるよう意識して活動している。</p> <p>学区で実施している歩こう会では、足の筋力を鍛えるため、ウォーキングに取り組んでいる。知人には、朝にたばこの吸い殻を拾いながら歩いている方もいる。</p>
○ (特非) 京都禁煙推進研究会	<p>京都市のがん検診受診率は、国民生活基礎調査だけでなく、実受診者数に基づいた算出も可能だと思うが、いかがか。また、コロナ禍をきっかけに小学校で集団健診を実施しなくなった。その影響として、集団健診と同時に肺がん検診を受診することができなくなった。現在、小中学校の体育館に冷房を設置するという話もあるが、環境が整えば、地域の方が受診しやすい小中学校での健診を再開することも検討いただきたい。</p>
●事務局	<p>受診率について、受診者数は国に報告しているため、受診者数を基に受診率を出すことや他の自治体との比較も可能。一方で、がん検診は、</p>

	<p>受診方法を問わず受診率向上を目標としており、職域検診を含めた受診率が必要と認識している。</p> <p>集団健診については、現状、区役所で実施し、肺がん検診も併せて実施しているが、コロナ禍以前より肺がん検診受診者数はやや少ない状況。</p> <p>今後の実施方法については、冷暖房設備や、その時々の状況を踏まえ、検討していくものと考えている。</p>
--	--

## ② 働き盛り世代への取組について【資料6】

報告・説明 事務局

意見聴取等 ○機関・団体等 ◎部会長（生活習慣病予防部会）●事務局

◎石見部会長	
○京都労働者福祉協議会	<p>喫煙について、年末、鴨川沿いを歩きながらごみを拾うクリーンキャンペーンを行っている。一番多いごみはたばこの吸い殻である。</p> <p>検診について、お金が掛かるから行かないといった声も聞く。情報を必要な人に届けることが重要。郵便局でのがん検診ガイドの配架について、郵便局に行かない人も多い。周知方法は工夫が必要である。</p> <p>予算が豊富にある健康保険組合では、全員にスマートウォッチを配布し、各自設定した目標歩数を達成した方へのクオカード配布など、インセンティブを設けているところもある。また、事業所では、健康診断を受けるよう指導が可能だが、国民健康保険でも定期的に意識できるような仕組みが必要。</p> <p>京都市全体が健康になれるよう、できることがあれば協力していく。</p>

## 4 その他 報告事項 進行 生活習慣病予防部会 部会長

「京都市 健康長寿・口腔保健・食育推進プラン」に関するアンケート調査の実施について【資料7】

報告・説明 事務局

意見聴取等 なし

## 5 閉会